福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

（財）第五福竜丸平和協会

〒136　東京都江東区夢の島3－2
都立・第五福竜丸展示館内
電話（521）8494

● 100万人参観者運動を！

'83年4月来館者数	3,614名
通算1カ月平均来館者数	4,229名
当月1日平均来館者数	139名
通算来館者数	350,988名

核軍縮について思う

川崎　昭一郎

三月末、朝日新聞社主催の国際シンポジウム「核軍縮実現への道」を傍聴した。三日間の討論をつうじてとくに感銘をうけたのは、メキシコのガルシア＝ロブレス氏が示した五項目の提案である。その内容はつぎのようなものである。

①多国間交渉をつうじて国連軍縮委員会はすべての核兵器実験禁止の条約案を起草し、おそくとも一九八四年までにそれを国連総会に提出すること。

②ソ連とアメリカが、同時になされるそれぞれの一方的宣言か、単一の共同宣言によって、即時核軍備凍結（フリーズ）を宣言するよう、うながす国連総会決議を行なうこと。

③アメリカ、フランス、イギリスが核兵器を最初に使わないと誓約すること（中国とソ連はすでにそれを行なった）。そして国際的な法的に拘束力ある文書を作成するため五核兵器国による会議を招集すること。

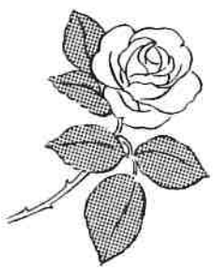
④軍備競争終結と核軍縮についての交渉を開始するため、特別の作業グループをジュネーブ軍縮委員会に設置すること。

⑤ヨーロッパ非核地帯の設置について、NATOおよびワルシャワ条約両軍事同盟間で交渉すること。

これらは、これまでの核軍縮の歴史の総括のうえに、国連総会が定めた軍縮の目標と優先順位を要約し、パルメ委員会などさまざまな国際集会で承認された視点を採用したもので、〃人類の意見を反映するもの〃として提案された。一見ひかえ目ではあるが、包括的であると同時に、現実の国際関係のなかで核兵器国がなにをなすべきかを具体的にのべている。ちなみに、ガルシア＝ロブレス氏はメキシコの外交官で、現在ジュネーブ軍縮委員会のメキシコ政府首席代表、世界初の非核地域化をめざしたラテンアメリカ核兵器禁止条約を成立させ、一九八二年度のノーベル平和賞を受賞した。

日本の核兵器禁止運動が昨年もりあがったことは事実だが、まだまだ世界的な視野に欠ける。また、たて社会の論理が貫徹し、運動のなかで草の根民主主義的にクリエートされるものが案外すくない。多様な価値観が存在するなかで、たがいに理解しようと努力するよりも相手を非難する方が多い。みなが一致できる点を重んずるあまり、真に重要な問題についての議論をさけ、また、政治とのかかわりを必要以上にさらに、政府にたいしていうべきこともはっきりいわない。日本の運動が国際的にリーダーシップを発揮しうるためには、これらの弱点を克服することが必要であろう。

（平和協会評議員・千葉大学）



まっ白ぶねくん げんきにしているかい

四月十五日、大分県津久見市にある保戸島小学校から部厚い手紙がとどきました。潮のかおりがするような封筒をあけると、こどもたちの作文でいっぱいでした。一緒に入っていた先生のお手紙には学校は小さな島、保戸島にあって全児童数は三百人ほど、ビキニ水爆実験で被災した第五福竜丸の乗組員のうち二人がこの島の出身であること、いまも一五〇隻ほどのマグロ漁船の多くは、ミクロネシア海域にでかけ操業していること、このこどもたちの多くは、やがてマグロ漁船の乗組員として太平洋にでかけていくでしょう、などと書かれていました。

一年から三年までの子どもたちは、学校の平和授業で、「おーい まっしろぶね」（山口勇子作）を通して、第五福竜丸事件を知ったそうです。こどもたちは、平和な海がいつまでも続くように願い、いっしょうけんめい、まっしろぶねに手紙を書いてくれました。みなさんありがとう。夢の島のお船もみなさんをまっていますよ。

わたしも、おてがみください ね。「おーい、まっ白ぶね」のテレビを見ましたよ。とてもかわいそうなおはなしでした。

（一年・きよたともみ）

＊

ぼくは、アメリカがにくい、第五福竜丸がかわいそう。アメリカがすいばくをおとさなかったらよかった。ビキニ島に、すましてあげたい、はやくほうしゃのうがきえればいいなぁと思いました。

第五福竜丸が、うごかなくても、みられたらいいなぁ。しゅうりをしてあげて、ぼくはうれしかったよ。いつまでもきねんにとってほしいと思いました。

（二年・井上浩二）

まっ白ぶねくん、げんきにしているかい。きみのからだは、はじめきれいでつぎは、よごれてさいごは、うごけなくなったね。このことをわすれないでね。いそしぎくん、うみにおちてしまったんだね。ぼくは、きみのことかってみたかったよ。それからあのすいそばくだんで、くぼ山さんは、しんだってね。それに、きみはよくがんばったね。これからも、みんなにおはなししてね。（一年・えぐちりょう）

＊

まっ白ぶねさん、くぼ山さんが、しんだのがかわいそうだと思ったよ。まっ白ぶねさん、せっかく二十三人の人たちがまぐろをいっぱいとったのに、くわれなくなってざんねんでしたね。まっ白ぶねさん、まっ白ぶねさ、んもそうおもいませんか。わたしは、まっ白ぶねさん、そうおもいますよ。うちのおとうさんもきみのようなふねにのってるよ。そして、まぐろもとってくるよ。そして、けんぼうが大きくなってうれしかったでしょうね。そして、なかまたちをよんでペンキをぬってあげて、まっ白ぶねさんうれしかったでしょうね。

編集後記

▲春のたよりが展示館にたくさん届きました。そしてこの間、いろんな方が訪れました。福竜丸を我が子のようにかわいがってくださった島田轍之助さん。船を救ってくれた武藤宏一さんのお母さん。また、NHKのアナウンサーは、福竜丸を全国に報道してくれました。その反響もあって、船がつくられた和歌山県古座町などから、便りが寄せられました。福竜丸が一番うれしかったのは、子どもたちからのたくさんのラブレターかも。これから展示館も多くの人の訪問で活気づくことでしょう。

▲もう夢の島は、初夏の香りにつつまれています。日曜日には、お弁当持参で家族づれがにぎわい、スポーツを楽しんだり、芝生に寝ころんだり、子どもたちも薄着になりはしゃいでいます。このような平和がつづくように。

〈お詫び〉

先月号のたよりに校正のミスがありましたことをお詫びします。加藤他三氏は加藤地三氏のあやまりです。

（も）

〝空想〟

第五福竜丸乗組員　大石又七

第五福竜丸の乗組員だった大石又七さん（冷凍士・現在は大田区でクリーニング店を経営）が四月二〇日、展示館来館のおり「近況です」と以下の手紙を寄せられた。今年の三月一日を迎え感じたままを書いたものとのことであった。

この地球上の大自然の中で、自然の法則に違反しているのは生物多しといえども、私ども人間だけのように思う。また、科学文明の進歩と喜こんでいる裏側にこの恐ろしい恐怖の現実のあることを実感として知っている者があまりにも少なくなってきた。

今の日本も上は金だ力だ汚職だと、下はやれ野球だゴルフだと、うかれきっている。これはいいすぎだろうか。世界的にも同じく、民族だ組織だ何々主義だと、それぞれの欲望と恨みが何百年、何千年と長い間にがんじがらめにできり上がってしまった現在、もうこれはときほぐすことはできないと思う。

軍縮、核反対廃絶等も、さけんだところで意味もない。なぜなら、日本にはかつて原爆が落とされ人類があじわったこともないこの世の生き地獄を知り、ビキニ水爆の実験で世論が爆発的にもり上がって三十年、人はそれに向って、驚くどころか、ますます悪化の一途をたどってきている。この三十年の核反対とその考え方は何んであったのであろうか。もしかすると核の恐ろしさを伝え、さわぐということは権力と力をあらそっている者達のかっこうの材料を宣伝していたかも知れない。

自分の国を守る、主義を守るという大義名分で核競争はとどまるところをしらず、今では人類全体を殺すというところまできているという。これらの経過を見てくると、これは、考えてはならないこと、すなわち核大国のソ連とアメリカの核戦争を恐れず一刻も早くさせる方が良いのかもしれない。皆がこわがるから、核を持った権力者は、それをふりまわすのだ。ふりまわす同士でやらせたらどうだ⁉今のうちなら核戦争をしても地球のどこか海の小島か、山奥に一人や二人は生き残るかもしれないが、これから先科学か、人間の欲望が何を生みだすか、科学進歩と共に強力な破壊力のある恐ろしいものが作り出されるか解らない。その時では、もしかすると誰も何も残らないかもしれない。

核戦争のきっかけは、もうここまでくると、やろうとしておこることだけではなく、それは何かたわいないきっかけが始まりで大事故につながっていくものだと思う。たとえばネズミが廊下を横切ったということが、きっかけになるかもしれない。頭でっかちの化け者が地球や自然を侵食しはじめ、加速をつけたらブレーキを持たない現在では、先きはどうなるだろうか。

かつて大恐龍が地球を支配していた頃があったというが、自分勝手な無秩序な行動が地球上の気象まで変えてしまい氷河期をつくってしまったとかいう伝説もあるが、何か、今世紀はそんな説に似た核の恐怖と熱地獄期のようなところに入って行くのかもしれない。

そんなことを考えるとき、やはり人間も、人間一個の頭で考えられるくらいの範囲の行動が自然界の仲間入りをさせてもらう一つの条件なのかもしれない。人間という奴は一度持ったり、味わったりしたものは、容易に無条件に元に戻すことはできない。やはりこの辺で、一度人類全体が大きな覚悟をすべきときがきているのかもしれない。科学文明が十の進歩というプラスをつくり出したときその時、同時に十のマイナスが生まれていることを忘れてはならないと思う。それが宇宙の中のぜったい量の中の原理であり、その中には、目に形に映らない物の方が多いのだということもよく知るべきだと思う。

進歩という名を追って刻一刻とゼロに向って進歩しているのかもしれない。残念ながら、悩み考えながらも私も、その現代の流れには逆らうこともできず同じ様に流されている。

（昭和五十八年三月二日記）

死の灰から三〇年〈2〉

写真・文　桐生広人

連帯する南太平洋の非核化運動

米領グアムで開かれたミクロネシア非核化会議は、この地球上で最後の地域的問題とされる独立と民族解放運動、これに強く結びついた同地域の非核化が中心的課題であった（会議の詳細は近く日本原水協より出版される予定）。

この会議の主催地となったグアムは、かってベトナム戦争の前進基地であったにもかかわらず、こうした独立や核兵器反対に多くの人々が関心をよせるようになったのは、つい二～三年前のことだという。そのキッカケは、日本の放射性廃棄物の海洋投棄や日本、欧州の反核運動および、ベラウなど近隣諸国の独立運動が刺激となったという。

米軍の核基地撤去と独立をかかげ、グアムの地方議会に初めて立候補した先住民チャモロの若い弁護士は落選の憂き目にあいすっかり落ちこんでいた。これを聞いた若い日本の女性（労働組合から参加した）は〝何いってんのよ、一度落選したくらいで。日本には何度落ちても頑張る人はいっぱいいる〟とプンプンしていた。

この弁護士の家（一人で住むにはぜいたくな家をもっている）に泊めてもらったおり、交通事故で死亡した近所の少年の葬式が通りかかった。このとき「日本では選挙区の政治家はこういう所に必ず顔を出す」と話したが、その意味することが理解できなかったようだ。事の良し悪しは別としてすれた日本的選挙に慣れた者の目には大変未熟に思われたりもする。

私が初めてグアムを訪れたのは一九七五年のことで、毎日B52がベトナム爆撃に飛び立っていたが戦争反対のプラカード一本立たなかった。それから七年の後、ミクロネシアの非核化と独立、連帯の中心をになうとこの会議がグアムの人々によって開催されたことは、私には大変感慨深いことであった。

宗教者の主催による，反核・平和の集会〝祈りの夕〟に参加したグアム先住民族チャモロ族の女性。〝チャモロ草の根運動〟を中心に先住民族自立への関心が高まりつつある。

福竜丸から春の便り

ＮＨＫの電波にのって

四月二〇日朝、タンポポの花まっ盛りの夢の島にＮＨＫの中継車がとまった。ラジオ第一放送。〝夢の島から〝のタイトルで放送開始〝ガーガーガー：みなさん、これなんだと思います？ビキニ水爆実験の死の灰の発する放射線の音です。いま私は第五福竜丸展示館にいますと〝女性アナ〟みあげるような大きな船です。ビキニ事件はもう三〇年になりますね〟ーここで展示館からわかりやすい説明。〝今日は当時の乗組員大石さんもおみえです〟。仕事を休んでかけつけた大石又七さんの生まなましい証言。〝海の底から伝わってくるような音でしたよ〟。保存運動の苦労話を三井周二さんが語し、島田轍之助老もおくれて参加。「核兵器のない世界に！みなさん福竜丸を見にいらっしゃい！」ーこどもたちの感想文をいくつか紹介したあとアナウンサーの明るい声がはずんだ。九時半からおよそ二〇分文字どおりぶっつけ本番の生中継、春の福竜丸からの便りだった。